

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5200 Fax:03-5206-5261

Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658

<http://www.facebook.com/NPO.JYFA> @jyfa

ブログ 雲南の都便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 惠蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社／デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第46号

発行日 2013年（平成25年）8月15日

会報

25の小さな夢基金
ふれあいの旅
2013
6月29日～
7月5日

夢基金卒業生は150名に! 卒業生の故郷「シーサンパンナ」 プーラン族村とタイ族村訪問

夢基金ふれあいの旅の一回は7月2日、今期卒業生の玉応坎さん（プーラン族）と依金罕さん（タイ族）の故郷、シーサンパンナ・タイ族自治州を訪ねました。二人はそれぞれ村から初めてと2番目の大学進学予定者とあって、一行は大変な歓待を受けました。

シーサンパンナの空港から車で4時間、高床式の質素な家が並ぶ孟海県プーラン山郷が玉さんの故郷です。村についてすぐ、彼女の小学校の同級生が3歳になる子どもを家の外であやしているところに出会いました。聞けば、経済事情からやむなく中学を中退し、15歳で結婚・出産したとのこと。玉さんの同級生の女の子たちは、全員がもう結婚しています。それが村では当たり前のことなのです。

玉さんのご実家では、ご両親をはじめ20人を超える親戚が自分たちで育てたお米や野菜等たくさんのご馳走と地元のお茶、白酒までなしてくれました。停電は日常茶飯事とのことで、この日も電気はありませんでした。家の壁には、玉さんと弟たちが学校で優秀な成績をおさめて手にした賞状が大切に飾っていました。

一行は玉さんの卒業した小学校も訪ねました。そこでも校長先生と郷政府の方が、玉さんの大学進学はプーラン族にとっての誇りであり、今後、彼女の学業を郷政府として支援していくと話してくださいました。

翌日は、ミャンマー国境観光の予定を急遽変更し、もう一人の卒業生・依金罕さんのご実家を訪ねました。依さんの故郷は同族自治州東部に位置し、隣国ラ

オスまで約40キロという辺境の小さな村。突然の訪問にもかかわらず、依さんのご両親や親戚が一行を情熱的に歓迎してくれました。「テレビ以外で初めて日本人を見たよ。皆さんに会えてとても嬉しい」というお父さん。依さんもまた村で2番目、女性では初めての大学生になるかもしれないのです。

もうすぐ6年目を迎える「25の小さな夢基金」。これまで150人を超える女の子が高校を卒業し、そのほとんどが大学進学の夢をかなえました。それは、皆さんのご支援が、彼女たちの輝く未来への扉を大きく開いたということです。たった2日間でしたが、支援の意義を深く実感できた故郷訪問でした。



素晴らしい出会いに感謝!

【ふれあいの旅参加者（順不同・敬称略）】
佐々木英介、久慈智弘、東郷浩、桶口忠治、
近藤鉄一、佐伯義博、下垣昭宏、南里稔、
武田忠通、外川智大、阿部朋恒、平田栄一、
初鹿野惠蘭、中洲慶子、林娜、篤宮子
【現地協力団体】昆明市女子中高等学校、
雲南国際大学生協会、雲南省婦人联合会、
シーサンパンナ・タイ族自治州勐海県
政治協商會議、プーラン山郷曼囡小学校



プーラン山郷の村人たちが暖かく迎えてくれました



▶玉さんの同級生は、15歳で結婚し出産しました

▼玉さんの母校の子どもたち。みんな、先輩のように夢を持って勉強してね!



▶依さんの親戚たち。突然の訪問にもかかわらず、熱烈な歓迎です



3年間のご支援は、物質面だけでなく精神面でも大きな支えになりました。応援してくださいましたことに心から感謝しています。

日本の皆さん方が私たちの故郷を訪ねてくださるなんて夢にも思っておらず、家族もとても喜んでいました。いつか私たちのサポーターさんにも来ていただけ、直接御礼が言えたら嬉しいです。私たちは本当に幸運です。夢だった大学進学も実現しそうです。この先もがんばって新たな夢を叶えます。本当にありがとうございました。

（玉応坎、依金罕=25の小さな夢基金今期卒業生）

25の小さな夢基金フォーラム 「未来を創る」、開催



もう一方の「主役」学生たち。
浴衣を着て準備万端



大学生日本語
スピーチコンテスト、
今年の優勝者は
なんと1年生!



2年前に始まった「夢を語る」同窓会は、フォーラム「未来を創る」に改称し、今年も卒業式の前に開催されました。一年に一度、現役の夢基金生や過去の卒業生が集まり、日本人サポーターに努力の成果を報告する日であり、日本人サポーターにとっても、支援の成果をその目で確かめ、自ら支援する生徒と心を通わすまたとない機会です。

また、フォーラムには別の主役がいます。日本語を学び、通訳を担当するボランティアの現地大学生たちです。大学生たちは、日本語を活かして草の根交流の手助けをしながら、国際協力活動のあり方を学んでいます。「未来を創る」という名前には、夢基金生や大学生たちが、活動を通じて成長し、未来の世界を支える人間に育てほしいという協会の願いが込められています。近年、協会活動の重点はハード面の支援からソフト面の充実へと大きく移行しており、このフォーラムも重要な活動のひとつです。

フォーラムの後半、参加者たちは、それぞれのテーブルに分かれて「夢を載せた」風ぐるまを作りました。「日本語を習得して日本に行きたい」「愛するみんなが元気でいてほしい」「色鮮やかな風ぐるまに送り出されたたくさんの夢が叶うよう、協会は活動を続けていきたいと思います。



過去の卒業生から日本の
サポーターざくへ、手作りの
贈り物をお預けしました



夢を載せた風ぐるまが完成

日本の架け橋目指し、 「雲日国際大学生協力会」活動中!

初代リーダー・于瑋さんより 憧基金“开创”

雲日国際大学生協力会は2010年、日本雲南聯誼協会に協力する学生ボランティア組織として発足しました。現在、雲南省と日本の橋渡しのために日本語を学ぶ学生約100名が会員になっています。今は済南学院の学生だけですが、今後は雲南師範大学や雲南大学の学生にも参加を募る予定です。

私たちは学んでいる日本語を実際に使い、雲日双方の架け橋となるよう日々活動しています。今年はすでに、昆明女子高校での「夢は叶う」講演会や日本語授業を初め、雲南師範大学での第1回日本雲南学生フォーラム、「25の小さな夢基金」フォーラムなど、企画から通訳までリーダーを中心にして100名以上が参加しました。私たちは活動を通じ、日本語能力を向上させるとともに、人間としても大きく成長しています。今後も、協会の活動を支えながら、日本語学習の実践の場として積極的に活動していきたいと思います。

「未来を創る」フォーラムでは、リーダーの任命式も

行われました。

たくさんの愛を胸に、夢基金5期生48名が卒立つ

「25の小さな夢基金」第5期生48人が7月1日、3年間の高校生活を終え、無事卒業しました。その全員に、遠く日本から応援続けてくれたサポーターがいます。サポーターを代表して今年は7名の会員が昆明での卒業式に出席、卒業生たちの新たな門出を祝いました。



サポーターを囲んでの貴重な交流時間



昆女中2013届高三毕业典礼

卒業おめでとうございます！

「本当に今日は私のサポーターさんにお会いしたかったけど、とても忙しいことを知っています。この3年間勉強を続けることができて、本当に本当に感謝しています。これからも努力を続けていきます」。そう話しながら、大粒の涙を流す卒業生もいました。海を越え生徒たちを応援して下さったサポーターの皆様の愛情は、生徒1人1人の心の奥深くに届いていました。

11年ぶりの雲南で「悦邂逅」の素晴らしい経験

東郷 浩さん

「来年もまた来たい」と
そう話してくださいました
東郷さん(右)



協会支援3校目小学校の開校式以来、11年ぶりの雲南訪問となりました。開校式ではまだ幼い小学生とのふれあいでしたが、今回の旅では、少数民族の女子高生や日本語を学ぶ大学生など物事をよくわかる年頃の若者とじっくり交流でき、等身大の若者の気持ちが良く分かりました。旅の後半に訪れた夢基金生の故郷、フーラン族の村では村民の熱い歓迎に感激。翌日は予定外にもう1人のタイ族の卒業生の村を訪ねましたが、突然の訪問にもかかわらずこちらでも熱烈な歓迎を受け、心底感謝しました。まさに草の根の交流、人ととのふれあいです。日本からの同行者のほとんどはリビーターでしたが、また来たくなる気持ちがよくわかりました。そしてもっとたくさんの会員の方に、この素晴らしい経験をして頂きたいと思いました。現地で活躍する様々な方との意外で素敵な出会いもありました。今回、私が夢基金生たちに贈った「悦邂逅」の書のごとく、出会いの喜び溢れる旅でした。

アジア未来への人材プロジェクト 「日本」をもっと 知りたい！

一雲南大学生対象に日本語でフォーラム開催

雲南省昆明市で今年5月、日本語を学ぶ大学生と日本の有識者が日本経済について語る「第一回日本雲南学生フォーラム」が開催されました。協会が「未来への人材プロジェクト」の一環として企画し、雲南大学滇池学院、雲南師範大学外国语学部の協力で実現しました。

記念すべき第1回フォーラムのテーマは「ドラえもん、鉄腕アトム、クールジャパン…日本人の創造性と日本経済」、パネリストは富士電機株式会社元会長の加藤丈夫さんと日本経済新聞社元副社長で協会顧問でもある新井淳一さんです。日本経済の第一線で活躍してきたお二人からじかに話を聞けるとあって、当日は122名もの学生が集まりました。

お二人の基調講演に続くフォーラムでは、学生から活発な質問が。「日本人の創造性と日本経済はどう着目すればいいか」「円安はいつまで続くか」など日本経済全般にわたるものから「日本企業はどのような人材を求めているか」「未来のために何を勉強すべきか」といった身近な就職問題まで、お二人は全ての質問に丁寧に回答してくださいました。



学生からは流暢な日本語で質問が。



大学の先生方・ゲスト聴講者とともに

会場を埋め尽くした
学生たち。
この貴重な機会は
見逃せません！加藤丈夫さん(左)は
前日の講演会に続いての登壇学生たちの知的好奇心を刺激してくださった
新井顧問(右)と加藤さん

学生たちは講演会終了後、
日本語でアンケートに
回答してくれました。

「日本雲南聯誼協会を知り、日本の偉い人たちと会い、素晴らしいお話を聞けて嬉しい。経済について理解しました」「高齢化、少子化に対して何か役に立つ社会を作りたい」「社会文化についての方面、日本と中国が交流する活動が多くなって欲しい」等など、素敵な感想をありがとうございます！

第1回国立雲南学生フォーラム「ドラえもん、鉄腕アトム、クールジャパン…日本人の創造性と日本経済」

日時：2013年5月19日(日)14:00～16:30／会場：雲南師範大学外国语学院108教室

パネリスト：加藤丈夫(元・富士電機株式会社会長)、

新井淳一(日本経済研究センター理事、研究顧問／認定NPO法人日本雲南聯誼協会顧問)

聴講者：日本語を専修する大学生122名(雲南師範大学61名、雲南大学滇池学院39名、雲南民族大学18名、雲南大学1名、雲南師範大学院3名)

ゲスト聴講者：三木秀蔵、安保尚子、佐伯義博／補助通訳：高明(雲南大学滇池学院日本語学科講師)

共催／協賛：雲南師範大学、雲南大学滇池学院、メディネットインターナショナル㈱(以上敬称略)

日本の大先輩から少数民族の少女たちへ、「夢を叶える」メッセージ 25の小さな夢基金 第4回「夢は叶う」講演会

「25の小さな夢基金」の支援を受ける山奥育ちの女の子たちにとって、大都会昆明で勉強できること自体が夢のような話。でも、世界はもっと広く、無限の可能性に溢れている一彼女たちがより大きな視野を持ち、より大きな夢を抱いて社会に羽ばたけるよう応援しようと始まったのが「夢は叶う」講演会です。毎回、社会の最前線で活躍する日本の大先輩を昆明にお招きし、「夢」や「人生」についてお話し頂いています。1年8ヶ月ぶり、第4回となる今回は、富士電機株式会社元会長の加藤丈夫さんを講師にお迎えしました。

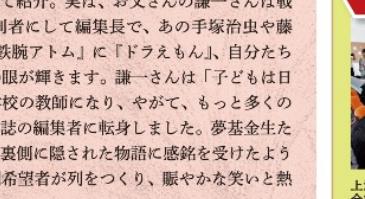
加藤さんは「夢を叶えた身近な例」として、自身のお父さんにについて紹介。実は、お父さんの謙一さんは戦後の漫画雑誌『漫画少年』の創刊者にして編集長で、あの手塚治虫や藤子不二夫を育てた人なのです。『鉄腕アトム』に「ドラえもん」、自分たちもよく知る漫画の話に夢基金生の眼が輝きます。謙一さんは「子どもは日本を支える宝」との思いから小学校の教師になり、やがて、もっと多くの子どもたちに夢を届けるため少年誌の編集者に転身しました。夢基金生たちは、自分たちの大好きな漫画の裏側に隠された物語に感銘を受けたようです。講演後、加藤さんへの質問希望者が列をつくり、懇親やかな笑いと熱気の中で講演会は終了しました。



164名の学生とともに

日 時：2013年5月18日(土)
会 場：昆明女子中学校
講 師：加藤丈夫さん
(富士電機株式会社元会長)
聴講者：夢基金生158名(1年生155名、
2年生3名)、
雲南大学滇池学院生6名
ゲスト聴講者：新井淳一、三木秀蔵、
安保尚子、佐伯義博
通 訳：高明(雲南大学滇池学院日本語科講師)、初鹿野忠輔(以上敬称略)

熱烈！歓迎！「夢基金」少数民族女子高生、初めての上海で異文化交流

自分たちのよく知るあるものの話、
夢基金生の眼も輝きます上海日本人学校高等部の
全校生徒100名が夢基金生を
迎えました

「25の小さな夢基金」で応援する少数民族の女の子たち10名が7月9日、上海日本人学校の生徒と交流するため、初めて上海を訪れました。家庭の事情や生活環境まで何もかも違う同世代の若者たちの交流の様子を、次回会報誌特別号で詳しくレポートします。お楽しみに！

